

## 東京パラリンピック 2020 聖火台受領式を行いました (2022/4/15)

テーマ：復興アクション 100+、東京パラリンピック 2020  
 場所：災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

令和4年4月15日（金）に東京パラリンピック 2020 聖火台受領式を行いました。本聖火台は2021年8月に行われた宮城県東京パラリンピック 2020 集火式で用いられたものであり、東松島市の小中学生によって作成されました。

東北大学は復興アクション 100+の一つとして多田千佳准教授（東北大学農学研究科）を中心に、身近な生ごみや糞尿から得られるバイオガスで生活に必要な火を灯せることを周知すること、そのバイオガスによる火を東京オリンピック 2020 の聖火にすることを目指し、2014年から出前講義等の活動をして参りました。2019年にこの活動が認められ、「縄文」をテーマに子どもたちが作った土器にバイオガスで炎を灯す集火式を行うことが決まりました。生ごみからできるバイオガスは暮らしの中でもっとも身近にある再生可能エネルギーであり、災害時の復旧過程でそのエネルギーが活躍して欲しいという願いが活動の中に込められています。

これらの一連の活動は震災復興を掲げて行われてきたものであったため、聖火台を通してこの活動を広く知ってもらうことを目的として、この度東松島市から贈呈いただき、当研究所に設置されました。受領式には、東松島市より小山修副市長他、五ノ井勝浩課長、阿部守克課長補佐、佐々木良介主査にお越しいただき、東北大学からは佐々木啓一理事・副学長、多田千佳准教授と当研究所の今村文彦所長（津波工学研究分野）、橋本雅和助教（災害ジオインフォマティクス研究分野）が出席いたしました。今後、教育・研究、地域との連携の活動に活かしていきたいと思えます。



東京パラリンピック 2020 聖火台



受領式にて

（左から 小山副市長、五ノ井課長、  
 佐々木理事、今村所長、多田准教授）



記念撮影（災害研エントランスホールにて）